

第104回大会(4月28日)の具体的な取り組みを確認

津山大会以降の暴力とファッショ的機関・組織運営による暴力集団の動労支配の破産的状况と、動労運動の変質を正し、動労本来の荒々しい戦闘的伝統の復権を目指す動労千葉の闘いの隆々たる前進の状況は、いまや、誰の眼にも鮮明なものとして現情勢を規定している。この間、「本部」暴力集団は動労組合員の浄財たる組合費を湯水のごとく費やし、「オルグ」と称する破壊襲撃を繰り返してきたが、動労千葉の組合員を誰一人として獲得できないまま、焦りからられ、ますます凶暴な攻撃に出て来ようとしている。四月二十八日(五月一日)に全国の動労組合員一〇〇〇〜一五〇〇名を引きまわし、動労千葉の破壊のみを目的とした「オルグ」計画なるものがそれである。動労千葉第三回支部代表者会議は四月二十七日、この組織破壊策動に対し、四月二十八日、津田沼支部において開催される「4・17事件糾弾・組織破壊暴力『オルグ』粉碎総決起集会」をはじめとする取り組みに総力を結集し、闘い抜くことを決意し、具体的行動を確認した。

労働運動を逸脱した「本部」暴力集団の実態!

当初「本部」暴力集団は、全国の心ある動労組合員の闘いにより、千葉地本排除策動が思うように行ない状況の中で、自らの暴力的本性を隠蔽するためにオルグらしい体制をとらざるを得なかった。その中で、「動労千葉一部執行部は嘘と暴力的脅迫で一四〇〇名組合員を引きまわしている」という暴力集団のこの間のデマ宣伝が逆に暴露されてしまい、一四〇〇名組合員の毅然たる対応の中でますます展望をなくした彼等は、焦りかられ、末期的なむき出しの暴力的破壊攻撃に出てきているのが今日の実態である。

4・11錦糸町駅において、弁護士まで引き連れて「列車が止っても動労本部が責任を持つ」と駅長に哀願して行った千葉地本青年部に対する暴力II集団テロ・リンチを転回点とする破壊攻撃の暴力的エスカレートは、まさに、労働運動の常識を逸脱したものとなっている。

竹竿、ボール、かけや、ベンチ、のこぎりまで用意し、コブシ大の石を投げながら一挙に庁舎を破壊し乱入しようとする襲撃を、いかなるコジツケをもってしようがオルグなどと認めることは絶対にできない。

統一地方選、七九春闘を闘う気など全くない「本部」暴力集団のこの千葉地本破壊襲撃の実態は、動労千葉一四〇〇名組合員のみならず、動労全国の、更には全労働者・人民の憤激をもって迎えられている。

「本部」暴力集団の本性II実態は全ての労働者・人民の前に自己暴露されているのだ。

破壊と脅迫のみを目的とした「オルグ」

いまや、「本部」暴力集団は論理をもって動労千葉一四〇〇名組合員を獲得する気も、その展望

も全くない。

ただただ動労千葉を破壊することのみを目的とし、そのことによって、動労全国の戦闘的、良心的組合員に対し「逆らうとこうなるぞ」という恐怖感を与え、自らの暴力的、ファッショ的動労支配を延命させようとしているのだ。

そういうものとして、4・28(5・1「オルグ」は実施されるのだ。

前進する動労千葉!

動労千葉第三回支部代表者会議は、この間「本部」暴力集団の組織破壊策動を粉碎し、統一地方選、七九春闘を敢然と闘い抜き、さらには支部結成大会が続々と開催され、団結署名が着実に前進していることに確信をもって、4・28(5・1)の具体的行動予定を決定し、あらゆる状況を想定した上で断固たる万全の対応によって、この組織破壊攻撃を粉碎してゆくことを確認した。

全組合員は総決起せよ! 支部執行部の指示のもと、一糸乱れぬ行動によってこの四日間の闘いを完全に勝利してゆくのではないか。

幕張支部結成大会からとる!

幕張支部結成大会は四月二十七日、午後幕張電車区講習室において開催され、九八名の代議員、傍聴者が結集し、圧倒的成功をかちとった。

地本・関川委員長も参加し、3・30動労千葉結成大会方針をあらためて確認するとともに同日午前中に開催された第三回支部代方針が白井支部長から報告され、この間の数次にわたる「本部」暴力集団による組織破壊攻撃をはね返し、二〇〇名を超える団結署名をかちとって闘い抜いてきた自信と確信の中から4・28(5・1)の暴力集団の組織破壊攻撃に断固対決してゆくことも併せて確認された。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

「4・17事件糾弾・組織破壊暴力『オルグ』粉碎総決起集会」

4.28-10時津田沼支部に結集せよ!